

マラヤ大学予備教育課程

AMBANG ASUHAN JEPUN

前国際交流基金日本語教育派遣専門家

(派遣期間: 1995年5月～1997年5月)

現日本語国際センター専任講師

来嶋 洋美

き しま ひろ み

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している機関の教師の方に、現場のコースデザインやコース運営の状況について、紹介させていただきます。



漢字を空中に書いて書き順を確認する

1. はじめに

マレーシアには日本の大学に入学するための予備教育を行っている機関がいくつかあります。マラヤ大学予備教育課程は、中等教育を終了したばかりの学生たちが、日本語や主要基礎教科(数学、物理、化学、世界史、政治経済。以下、「教科」と略す)を勉強して、日本に留学する準備をするためのプログラムです。マレーシアの予備教育機関のなかで最も歴史があり、今までに1,300人以上の卒業生を日本の大学に送ってきました。日本留学を終えた多くの卒業生たちは、日本企業に就職して活躍しています。これから、AAJ (AMBANG ASUHAN JEPUN = GATEWAY TO JAPAN)と呼ばれているこのマラヤ大学予備教育課程について、報告しようと思います。

なお、この報告の3・4・5は1996年度の内容をもとにしています。

2. AAJとは.....

マレーシアは、東方政策 (LOOK EAST POLICY) という政策を行っています。これは、短期間で目覚ましい経済成長を遂げた日本や韓国のような東アジアの国を模範にしようとするものです。特に、日本の労働倫理や経済

哲学を学ぶために、マレーシアの学生や技術者を日本に送って勉強させています。AAJはこの東方政策の一つとして、マラヤ大学内で1982年にスタートしました。2年間のプログラムで、現在1年生と2年生合わせて約320人の学生がマレーシア全国から選ばれて学んでいます。約80%が理系、約20%が文系です。

このプログラムを教えている教師も様々です。まず、日本語は国際交流基金日本語教育派遣専門家とマレーシア人教師、そして現地雇用の非常勤教師(日本人)全員合わせて20名が教えています。また、1年生の教科はマラヤ大学のスタッフ(マレーシア人)がマレーシア語で教えます。そして、2年生の教科は、日本の文部省から派遣されている教師(日本人)が日本語で教えます。2年生の教科の教師は、皆、現職の高校教師です。

3. AAJの日本語教育の枠組み

(1) 授業時間

AAJでは週35～39時間の授業がありますが、そのうち日本語は1年生で週20時間、2年生で週11時間です。実質年間授業週は1年生32週/年、2年生33週/年です。日本語の授業がないときは、教科の授業が行われていすから、朝8時から、遅いときは夕方5時まで授業があ

表1 過当たり授業時間数

	日本語授業	教科授業
1年生	週20時間	週17~19時間 (マレーシア語使用)
2年生	週11時間	週24時間 (日本語使用)

文系17時間、理系19時間

り、学生たちは大変忙しい毎日を送っています。(表1)

(2) クラス編成

両学年とも能力別編成で、1996年度は、1年生は4レベル8クラス、2年生は3レベル7クラスありました。試験の結果でクラス替えをしますから、学生たちはいつも勉強に励んでいなければ、下のクラスに落ちてしまいます。反対に、頑張れば上のクラスに行くことができます。

(3) 目標

大学留学を目指しているため、AAJの日本語教育は主に読解力と聴解力の養成を目標としています。特に、読解力に力を入れています。実は聴解力の養成にも同様に力を入れています。作文や会話ももっと教えたいのですが、海外では物理的な制約が多く、また授業時間の問題もありますから、理想に近づくことはなかなか難しい問題です。

(4) 主教材

教材は、1、2年生共にAAJで開発した初級、中級教科書を使います。読解力の養成のために文型、語彙、漢字学習を主眼にして1986年から作られてきたものです(但し、1997年度入学の学生からは新しい教科書に変わります)(表2)

表2 AAJ教科書の文型レベル・漢字数・語彙数

	文型	漢字数 語彙数
1年生	初級	書き漢字 729字 約2500語
2年生	中級	書き漢字 365字 約4000語

(5) 試験

試験は、Semester III(第3学期)までは各学期に中間試験と期末試験が行われますが、2年生はこの外に日本の文部省が実施する文部省修了試験を受けます。修了試験は教科も日本語もありますが、日本語では読解、文法、漢字、語彙、聴解が出題されます。この試験に合格すれば、めでたく日本に留学できるというわけです。また、成績に直接影響するわけではありませんが、日本語能力試験も毎年受けています。1年生は3級、2年生は2級を受けます。(p.5 表3)

4. 授業の実際

(1) 1年生の場合：初級～中級入門期

さてここで、AAJの日本語の授業がどのように行われているかを説明します。

a レクチャー(週4時間)

1年生の場合、特徴的な点は、レクチャー・チュートリアル方式を行ってきたことにあるでしょう。レクチャーは、マレーシア語が英語を使用して文法説明をする講義です。マレーシア語が英語を使うと、より複雑な文法の説明ができるので、学習者は効率的に文法知識を得ることができます。そうして知識を頭に入れたら、今度はすぐに小さいクラスに分かれて、使い方を練習する。こうすれば、効果的な学習が期待できるという考え方で、このような方式が長年続けられてきました。

b 文法チュートリアル(週10時間)

小さいクラス(16~23名)に分かれて行う授業は、チュートリアルと呼ばれています。チュートリアルクラスは、日本語のホームクラスでもあり、1年生は全部で8クラスあります。週10時間ほど教科書に出てくる初級文型の基本練習や応用練習をします。また2~3課毎に文法テストをします。基本練習は形を正しく覚えるための練習です。動詞、形容詞の活用を覚えるのに、学生たちは苦心しているようです。応用練習は、少し複雑な文を書いたり、小さな会話をやったり、ゲームやタスク練習を取り入れたりして、できるだけ自然な状況設定のなかで文型を使う練習ができるような工夫を各教師がしています。海外では、生の日本語に触れる機会が少ないので、聴解テープを使った練習も取り入れるようにしています。さらに、読解力を養うことを目的に作られた数行の文をたくさん読みます。これは教科書に練習問題として載せられているのですが、毎時間、新しい語彙や漢字がたくさん出てくるので、予習をしないと授業についていけません。AAJでは読解力の養成が大きな目標になっていますから、初級のうちからこのような文を読む練習をします。

c 漢字チュートリアル(週4時間)

漢字は週4時間あり、毎回7~8字の新しい漢字を習います。学生はこの漢字を読むだけでなく、書けるようにならなければなりません。漢字にはほとんどの場合、読み方がいくつかありますが、AAJでは、新しい漢字の読み方を一度にできるだけたくさん提示することになっています。学生にとってはかなりの負担です。また、語

表3 2年間の授業と試験の流れ（1996年度）

	1年生		2年生	
	semester I	semester II	semester III	semester IV
授業内容	レクチャー（文法説明） チュートリアル 文法 漢字 会話 聴解	文法の 復習・ 作文・ 読解	チュートリアル 文法 漢字 読解 聴解 作文	特別授 業
試験	（中間）（期末）	（中間）（期末） （能験3級）	（中間）（期末）	（文部省試験） （能験2級）

semester I は、第1学期に相当する

彙リストにある新出語彙のうち、漢字で書かれているものは、まだ書き方は習っていないとしても、読めなければなりません。学生が継続的に漢字学習をするように、毎回の漢字クイズ、そして2～3課毎のテストをします。結果が悪ければ、追試を受けたり、宿題として何度も書き直したりします。AAJの学生は全員、生まれて初めて漢字を勉強するので、漢字の複雑な形やいくつもある読み方を覚えたりすることは本当に大変です。けれども、読解力につなげるために、このような厳しい方法がとられています。（表3）

d 会話チュートリアル（週1時間）

マレーシアでは、学生が教室以外で日本語を使う機会はないありません。しかし、一方で、日常の会話力は日本へ行った後でも十分に身につくということから、週に1時間だけ会話のための時間を設けています。文法演習でも、短い会話形式の練習をすることはありますが、その場合は、あくまでもそのとき勉強している文型に焦点をあてます。会話授業では、それだけではなく、それまでに学習した初級文型をいろいろ使って、できるだけ自然な日常会話を練習するタスク活動などをします。場面や機能で毎回の授業内容を決めています。言葉を実際を使う練習はたいいていの学生にとって、とても楽しいようです。

e 聴解（週1時間）

授業の名前は「聴解」ですが、実際の内容は聴解練習と、ビデオの視聴です。ビデオは年間を通して、『ヤンさんと日本人々』『続・ヤンさんと日本人々』を見ます。『ヤンさん』のビデオは、登場人物がユーモラスで、特に続編の方はストーリー性がある面白く、学生も楽しみにしています。ほとんどの学生は日本へまだ行ったことがなく、彼らが日本の様子を知らずには、やはりビデオの力は大きいものです。ビデオ視聴の際、大切な言葉のディクテーションや内容確認のQAをした

り、全体のストーリーをまとめたり、日本の生活や文化に関する解説を教師から聞いたりします。

以上のような初級の授業が終わったら、文法の総復習をして、中級に入るための準備をします。読解については、接続詞、指示語、段落構成などに注意するといった読解の技術的な面に少したけ踏み込んだ指導をします。また、漢和辞典の使い方も指導します。中級に入ってから、難しい漢字があっても自力で調べられなければ困るからです。

(2) 2年生の場合：中級

誌面の都合上、簡単に2年生の様子を紹介합니다。2年生も、やはりAAJオリジナル中級教科書を使って、授業が行われます。基本的に、中級文型の導入・練習が中心となります。似ているけれども使い方の違う文型をうまく理解させなければならないので、教師も授業準備怠りなく臨まねばなりません。1年生では週20時間ある日本語が、2年生になると11時間になりますから、読解作文、会話などしたいことは山ほどあっても、なかなか十分に時間がとれません。その上、1月の文部省修了試験に先駆けて、日本語能力試験も受けますから、学年の後半は、試験対策の時間もとります。

2年生の学生にとって、何よりもショックなことは、



文法チュートリアルの授業風景

買い物の会話を練習する学生たち



教科の授業が日本語で行われるということでしょう。1年生のときは、マレーシア語で受けていた授業です。マレーシア語でも、内容を完全に理解できたかどうかわからなかったのに、2年生では、日本人の先生が日本語で教えます。留学生用の教科書を使っている科目も一部ありますが、大半は日本の高校の教科書です。もちろん、教科担当の教師たちは、何とか理解してもらおうという工夫をします。それでも、初級を終了してまだ間もない学生たちにとって、日本語による教科は、使用言語、内容の両方において大変なハードルといえるでしょう。学生はみな留学試験に合格して日本へ行く夢がありますから、頑張るしかありません。

5. コースを充実させる工夫

AAJでは、学生に対して勉強や生活面、進路決定に關するカウンセリングを行っています。1年生では、日本語教師の半数がマレーシア人です。マレーシア人教師は、母語と文化を、学生と共有しています。それに自らも日本語学習者であり留学生であったので、学生の問題点がよくわかります。ですから、勉強や生活面で問題のある学生の相談にのったり、日本語の理解が遅れている学生に対して母語を効果的に使って指導するなど、学生にとっても頼りになる存在です。

このほかに、AAJではプログラムを充実させるためにいろいろな行事を実施しています。日本語力の関係から主に2年生に集中していますが、日本人会主催の盆踊り大会、日本人学校訪問、日本人家庭訪問、日本企業工場見学などを通して、現地の日本人社会に少しでも触れる機会としています。盆踊り大会は1年生も参加して、ゆかた姿の日本人といっしょに踊ったり夜店を見てまわったりする楽しい行事となっています。また、「先輩の体験を聴く会」では、AAJの卒業生で、マレーシアの日系企業で働いている社会人を招いて、日本での留学生活

の体験などについて話してもらいます。学生の動機付けに大きく貢献しているようです。

6. 課題

AAJでは、16年間という長い間、いろいろな工夫をしながら予備教育を行ってきました。しかし、まだまだ改めていかなければならないことがあります。

まず、海外で予備教育を行っている機関としては、日本に関する情報を学生が自由にアクセスできる環境をもっと整えていく必要があります。日本の社会、文化、生活、大学、日本語学習のための参考情報など学生が必要としている情報はたくさんあります。

次に、大きな目標としている読解の授業時間をもっと増やさなければなりません。読解力につなげるための基礎として初級・中級文型や大変な数の語彙、漢字を導入しますが、肝心の読解練習そのものの量が今のところ決して十分とはいえないからです。作文や会話の時間も切り詰めています。それでも読解練習の時間は十分にとれないでいます。

もう一つの問題としては、1年生が到達する日本語力と2年生の教科授業で求められる日本語力のギャップが大きすぎる場合があります。つまり、2年生の教科授業は日本語で行われますが、要求される日本語のレベルが高すぎるため、学生たちが大変な苦勞をしているのです。これは深刻な問題です。何か対策を立てなければなりません。

さて、このようなAAJの問題は、もっと大きなレベルの問題につながります。つまり、日本語教育全体の問題として、さらに教科学習も含めた予備教育全体の問題になります。限られた授業時間のなかで、しかも海外で、どこまで学生の力をつけるのが妥当なのでしょう。現実的なのでしょうか。これがはっきりしないかぎり、効果的な教育は行えないということです。実は、この問題は、留学生を受け入れる大学側が留学生に何を求めているかということと密接な関係があります。教育内容のすり合わせをして、予備教育から大学教育へのスムーズな連携を実現させる日が来るのが望まれます。それでも、そんな日を待っているだけではなく、AAJの日本語では1997年度から新しいカリキュラムを導入し始めたところです。学生たちの留学生活を支える日本語力をしっかりと身につけてほしいという願いをもって、AAJをより良いプログラムにしていきたいと思っています。